

# パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2022年10月1日 229号  
世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## 第22回国際協力青年奉仕隊



タイヤをパラグアイカラーに塗装。9月6日



学校の食堂に壁画を描くチーム。9月6日



過去の青年奉仕隊が修理した、思い出深い旧校舎の前で記念撮影。9月5日



ニュー・ホープ・アメリカ号が隊員輸送に活躍。



その校舎の再塗装が完了。9月7日



当会が建築・寄贈した校舎を再塗装。9月5日

## グローバルリーダーになるには？

準備と実行に奔走した佐野道准氏の報告より

●今回実施した第22回奉仕隊の特徴は、3か国の混成(日本10名、パラグアイ6名、アメリカ3名)となったことです。国際色豊かで、文総裁夫妻の人類一族の理念を多少なりとも実現できたように思います。青年たちは国籍、言語の違いを越えて、兄弟として一つになろうとする心情が随所に表れていました。

●毎朝の訓読会で文先生の自叙伝を読みました。私たちは、世界中の貧困者たちの事情を共にできる者でなければグローバルリーダーになれないという箇所を読んでいたのですが、隊員たちには何とかして彼らと同じ事情圏を分かち合いたいとの願いがあふれていました。トイレは井戸からバケツに水を汲んで流さなければならぬし、シャワーは川に行くか、トイレの片隅でバケツで浴びる不便さに耐えました。でも男子たちはむしろ喜んで川に水を浴びに行っていました。自分たちが今まで当たり前だと思っていたことがここでは当たり前でなく、今までどんなに恵まれていたかを実感したと口々に言っていました。

●住民たちに最も喜ばれたのは児童公園です。遊具は私たちがエスペランサに着く数日前に業者が設置しました。私たちの到着時には多くの子供たちがそれで遊んでいました。当日は日曜日でしたが、それでも児童公園には子供たちがあふれていました。ブランコやシーソー、滑り台など一杯に群がっていました。学校の先生たちもそれを眺めながら、遊具が設置されるのが長年の夢だったと言っていました。

●高校の校舎の窓にカーテンを付けてあげました。校舎の窓が東と西とにあり、朝は東から、午後は西から太陽の光が差し込むのです。電気がなくて、クーラーも扇風機もなく、灼熱の太陽光をまともに浴びて勉強どころではないとのこと。高校の校長先生に何をしたら助かるかと尋ねると、即座にカーテンがあればとの答が返ってきました。そこで3つの教室の合計21個の窓にカーテンを付けてあげました。これに校長先生は何度も何度もお礼を言っていました。

●学校には教材が全くなく、先生ですら一冊の教科書をも持っていないませんでした。小・中学校の先生に最も望まれるものを尋ねると、教師用の教科書が欲しいとのことでした。そこで小学校から中学校までの主要な教科の教科書を一冊ずつ揃えてあげました。これを機会に、インディヘナの社会から向学心に燃える子供たちが出てくることを望んでやみません。





食品加工工房を訪問、試食。9月1日



全員そろって初めての夕食。8月31日



パラグアイの先発5隊員が到着。8月30日



養殖パクーを掬って別の池へ。9月2日



操縦士のピーターパウロさん。9月1日



ニュー・ホープ・アメリカ号は120馬力。



船でエスペランサ村に出発。9月4日



マンディオカの挿し木を体験。9月3日



ブタランドを訪問。9月3日



報告祭で、岩澤所長から受けた感謝状を手に記念撮影。大講堂にて、9月9日



釣り体験でピラニアをゲット。9月8日

**第22回青年奉仕隊活動日程**

8月29日 アスンシオン出発

8月30日 訓読会と体操（以後毎朝実行）ロマ・プラタにてメノー教徒移民の開拓史博物館とミルク工場を見学、カルメロ・ペラルタに移動・宿泊

8月31日 奉仕隊全員がレダに到着

9月1日 佐野氏の講話「南米摂理」「レダ摂理」「青年奉仕隊の意義と歴史」、レダ基地内見学（公館・食品加工工房・エビ養殖研究所・他）、スペイン語の歌の練習、一日の報告（毎晩）

9月2日 パクーの餌やり体験、養殖池で雑魚の除去、パクーの追い込み、および別の池への移し替え体験、岩澤所長の講話「日陽園摂理」、ピーターパウロさんの証、アキダバン荷役

9月3日 リアチョの干潟を散策、養豚場見学、農場見学、マンディオカ挿し木体験、穴掘り体験、パブロさんの証、歌の練習、奉仕活動の最終準備

9月4日 島田さんの講話、歌の練習、昼食後に船でエスペランサへ移動

9月5日 エスペランサでの奉仕活動開始、オープニングセッション、食堂に描く壁画の下絵を描く、校舎の塗装、子供たちと遊ぶ（サッカー・折り紙等）

9月6日 校舎の塗装、食堂の壁画描き、公園のタイヤ遊具を塗装

9月7日 食堂の壁画完成、校舎塗装完了、エスペランサ開村記念祭パレードに参加、昼食後に船でレダに移動、洗濯、星を見る（星座の話・宇宙の話）

9月8日 船でカナン牧場へ移動、牛の放牧場見学、乗馬体験、牧場風の昼食、船でレダに移動、魚釣り体験

9月9日 感想文記述、報告祭（証し・歌・記念撮影）、国際食事会、アキダバンで家路に就く隊員たちを見送る。





青年奉仕隊員の自己紹介。9月5日



子供たちに歌を歌ってあげる。9月5日



エスペランサで迎える最初の朝。9月5日



朝の川水は冷たくて気持ちいい。9月6日



子供たちがダンスを披露。9月5日



サッカーとバレーのボールを贈呈。9月5日



子供たちに折り紙を教える。9月6日



ものすごい集中力で壁面を描く。9月6日



古タイヤで作った鳥に色を塗る。9月6日



エスペランサ開村記念式典で。9月7日



仲良くなった子供たちと。9月7日



お別れ前のツーショット。9月7日

●住民の未来を考えたときに、この奉仕隊はあくまでも彼らが主体となつて、彼ら自身が自分たちの村を良くするための奉仕をする活動であり、我々は少しの知恵、技術、経験、教育を提供するだけであり、活動のための材料や人材は彼ら自らが準備するのが良いかもしれないと思いました。(男・日本)

●環境問題を考える時、途上国である地域は無視できません。エスペランサを始め多くの人が食料・エネルギー・物を必要としている事を実際に目で見ることができました。そしてエスペランサの奉仕に携わった事を誇りに思います。エスペランサには良いところが多くさんあります。今までは別の視点で物事を考えるきっかけになったことを深く感謝します。(男・日本)

●神様は、今日この地で、私が他の人をもっと信頼し、投入して、兄弟姉妹との時間を最大限に活用すべきだと、私に教えてくれました。なぜなら、私が「できる」と思うどんなことよりも、私がどのような心でそれを行うか、そして私の心と私の周りの人々の心に何が残るかが、神様にとってより大切なことだからです。(女・パラグアイ)

●今回、日本とアメリカとパラグアイの3カ国から隊員が揃い、韓国、ハーフもいたので4か国語をこの期間たくさん耳にしました。言葉だけでみるとわからないこともありました。なぜか違和感がなく、その人の表情や心情が自然と伝わって、まるで直接会話しているようでした。お互いに言葉を教えあったり、覚えてきた言葉を実際に使ったり、そうやってお互いに歩みよれて、本当に兄弟姉妹のような関係をもてたことが嬉しいのです。(女・日本)

下、四面に続く)「持続可能な福地建設をめざして」は休ませていただきます。

青年奉仕隊員の感想文(抜粋)



## 青年奉仕隊感想文（抜粋）

（三面よりつづく）

●奉仕隊員で英語しか話せないのは私だけでした。言葉の壁に関し、私はスタッフと隊員の皆さんの寛容な心と思いやりとに、限りなく感謝しています。もはやこれ以上は望めない、最高の仲間たちと奉仕活動をする事ができました。この間に心を通じ合えたメンバーたちと、まもなく別れなければならぬことをとても寂しく思います。皆さんのことを決して忘れません。この期間は、文字通り、人生でたった一度の貴重な経験でした。この先もずっと心に抱き続けていくことでしょう。（男・アメリカ）

●パクーの水上げ作業は靴下を履いたまま泥の中に入ります。靴下が汚れ、その後気持ちが悪くなるのが嫌で最初は入りませんでした。後々入る機会があり、入ってみると確かに最初は気持ち悪かったですが、慣れてくると楽しくなりました。この経験から嫌だと思っていることでもいざやってみれば楽しいかもしれないということを学び嫌なことでも率先して挑戦していきたいと思います。（男・日本）

●エスペランサ村で過ごしながら、水道、電気、食べ物、衣服、道路、建物、教育等、日本では当たり前のあるあらゆるものが不十分な環境で、社会科で学ぶ教科書の中にそのまま飛び込んだように感じました。ただ不思議なことに、そんな不自由な生活であるにもかかわらず、この期間一度もこの環境が嫌だと思ふことはありませんでした。むしろ当たり前前のことがどれだけありがたいことかと言うことに気づけて、感謝でいっぱいでした。また、その村で会う人たちは全員と言っていいほどみんなキラキラした眼差しと笑顔で挨拶をしてくれました。多くの子どもたちが、言語の壁なんて気にせずに近寄ってくれました。人々からたくさん愛を与えてもら



カナン牧場で全隊員が乗馬体験。9月8日

がどれだけありがたいことかと言うことに気づけて、感謝でいっぱいでした。また、その村で会う人たちは全員と言っていいほどみんなキラキラした眼差しと笑顔で挨拶をしてくれました。多くの子どもたちが、言語の壁なんて気にせずに近寄ってくれました。人々からたくさん愛を与えてもら

らったと感じ、心が満たされました。その反面で、生活のために犯罪を犯すことも多いという話を聞き、こんなに純粋な情を持った人たちが夢を持つことさえ難しいんだろうと思うと複雑な気持ちになり、外面的な支援のみならず、夢を持てるきっかけを与える人になりたいとも思いました。（女・日本）

●プログラムの進行や環境的な面で、あれこれ葛藤することはありましたが、この仲間たちとともにあつて、素晴らしく、かつ記憶に残る体験をすることができました。例えば、カードゲームをしたり、壁に絵を描いたり、歌の練習をしたり、川



完成した壁画： ¡Sé la ESPERANZA del Chaco Pantanal! 「チャコ・パンタナールの希望となれ！」9月7日

で行水したことなどです。神様がどんなに私を愛しているか、そしてまた私たち全員をどれほど大切に思っているか、そしてまた私たち全員を愛します。この期間、私自身が神様に代わってエスペランサのコミュニティに奉仕することができたのだとしたら、とても幸いです。（男・アメリカ）

●ここにいとると精神的にとっても高まり、こんなに気分が良くなると思いませんでした。ここで日々生活し、兄弟姉妹の一人ひとりと分かち合い、彼らから学ぶことは、ある意味で私にとって本質的な発見でした。長い間探していたものを見つけたような感覚です。まるで私の目を覆っていた目隠しが取り除かれ、すべてを新しい目で見て、新しいパラダイムでそれを熟考する、本当の私という存在に変わることができたかのようです。（女・パラグアイ）

## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話：044-829-2821

FAX：044-829-2820

支援金振込口座：ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール:office@asd-nsa.com

ホームページ:https://asd-nsa.com

Facebook:https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

## レダ・プロジェクト紹介 用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>